

# 博士学位論文審査公開発表会

日 時：平成25年1月31日(木) 15:00～

場 所：新研究棟2階 大会議室

発表者：高野 裕子

タイトル：18世紀初頭のフランス・クラヴサン音楽に  
おける「手」の機能

—「耳と目で分かち合う喜び」がもたらした展開—

**概 要**：本研究は、18世紀初頭に見られた、フランス・クラヴサン音楽における「転換期」に対し、「『手』の機能」という視点を通して考察を試みたものである。イタリア音楽とフランス音楽の結合という、当時のフランスにおける音楽的背景をベースに、F. クープラン、ダンドリュウ及びラモアのクラヴサン曲を、「手」の機能に関わる3つの側面——「技法」、「楽器」、「聴き手の眼差し」——から分析をおこない、クラヴサン上における「手」の機能展開について指摘した。その中でも特に、ラモアによる「手」の機能展開は、多方面において新たな可能性を提示するものであったことが明らかになった。